

# 博士論文要旨

## 認知症治療における薬剤師の臨床薬学的介入の有用性に関する研究

森 光輝

近年、我が国において高齢化が問題となり、高齢者は年齢とともに様々な疾患を誘発する。その中でも問題となる疾患の一つに認知症がある。認知症ケアは幅広いサポートが求められており、臨床現場では認知症ケアチームによる介入が行われている。大垣市民病院の認知症ケアチームは医師、認知症看護認定看護師、医療社会福祉士、薬剤師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士および管理栄養士により構成され、多職種により介入を行ってきた。薬剤師は薬物療法を担う役目があるが、認知症ケアチームにおける薬剤師参画の有用性を示した報告はない。また、認知症治療において抗認知症薬の特徴を理解した薬剤選択が重要となる。本研究では認知症ケアチームにおける薬剤師活動の有用性の評価と抗認知症薬の副次的作用の調査を目的に本研究を行った。

第1章では、認知症ケアチーム介入患者におけるメマンチンおよびリバスチグミンの適正使用について評価をし、薬剤師介入の有用性を明らかにした。メマンチンは腎機能に応じた減量が必要であり、リバスチグミンは増量までに時間を要する薬剤である。認知症ケアチームに薬剤師が参画することで、適正使用が推進への有用性を見出した。第2章では、認知症ケアチームにおいて薬剤師の介入により抗認知症薬による認知症治療が推進できることを明らかにした。抗認知症薬による薬物療法の状況を調査し、薬剤師の治療参画に関する有用性を評価した。認知症に対して有効性があり、ガイドラインにおいても使用が推奨されている抗認知症薬ではあるが、本邦では未治療な症例も多い。そこに薬剤師が処方提案や適正使用の介入を行うことで、抗認知症薬が多く処方されていた。認知症ケアチームにおける薬剤師の介入は、認知症治療推進にも有用性がある可能性を見出した。第3章では、薬剤師主導の認知症ケアラウンドを行い、その有用性を睡眠薬の使用割合にて評価した。薬剤師主導の認知症ケアラウンドは初めての取り組み報告となり、睡眠薬の使用状況を改善することを明らかにした。薬剤師主導の認知症ケアラウンドは多くの患者に介入でき、薬物療法の改善ができる有用な手法である可能性を見出した。第4章では、メマンチンの短期間・低用量における睡眠時間延長効果についてガランタミンを比較対象として評価した。メマンチンの睡眠時間延長効果は定常状態で確認されているが、睡眠に関連する薬剤は即効性が重要であり、メマンチンの開始用量である低用量と短期間においても効果を確認できた。第5章では、ドネペジルの大量服薬

症例において臨床症状と血中濃度について報告した。ドネペジルは半減期の長い薬剤であるが、大量服薬時には急速に血中濃度が低下するが臨床症状は残存するため、血中濃度のみで経過を判断できない可能性を明らかにした。

以上、本研究では認知症ケアチームにおける薬剤師介入による有用性を明らかにし、抗認知症薬における副次的作用の知見を得た。高齢化社会である日本において認知症ケアは重要な課題であり、薬剤師も抗認知症薬を通して、積極的に薬物療法に関わる必要がある。本研究の結果は、他施設の認知症ケアチームにおいて薬剤師が参画する契機となり、患者の状態に応じた抗認知症薬の薬剤選択の一助となりうる。また、本研究は、認知症ケアの推進および薬物療法の適正化に貢献できると考える。

## 論文審査結果の要旨

氏名（本籍）	森 光輝 ( 岐阜県 )
学位の種類	博士（薬学）
学位記番号	乙 第 4 1 5 号
学位授与年月日	令和 6 年 3 月 1 0 日
学位授与の条件	学位規則第 4 条第 2 項該当者
学位論文の題名	認知症治療における薬剤師の臨床薬学的介入の有用性に関する研究
論文審査委員	(主査) 中村 光浩
	(副査) 井口 和弘
	(副査) 林 秀樹

近年、認知症患者は増加傾向にあり、認知症ケアにおいて薬剤師は薬物療法を担う役目がある。本論文は、認知症治療における薬剤師活動の有用性および抗認知症薬の副次的作用を検討したものである。①薬剤師が認知症ケアチームに参画し、メマンチンの腎機能に応じた減量、リバスチグミンの適正な増量に介入することで適正使用が推進することを明らかとした。②認知症ケアチームにおいて、認知症に対するガイドラインに準じた抗認知症薬の使用を積極的に推進し、薬剤師介入の有用性を明らかとした。③薬剤師主導の認知症ケアラウンドを行い、本活動により睡眠薬の使用状況が改善することを明らかとした。④メマンチンの短期間・低用量における睡眠時間延長効果を評価した。メマンチンはガラントミンに比較して速やかに睡眠時間を延長し、夕食後服用で高い効果を示すことを見出した。⑤ドネペジルの大量服用症例において血中濃度の速やかな消失にも関わらず、血中濃度低下後であっても臨床症状が継続する可能性を示した。

以上、本研究は、薬剤師の認知症治療への積極的関与を推進し、患者の状態に応じた抗認知症薬の薬剤選択に有用な臨床的知見を与えており、博士（薬学）論文として価値あるものと認める。